

会員の声：「リー・クワンユーの国家とASEAN」

帝人株式会社 岡村 康弘

ビンタン島のマナマナビーチで、真っ白な砂、逆まく波、風に一方向に吹き寄せられたヤシの葉、白人美人の甲羅干しを眺めながら、ぼんやりと想った。

“ボーダーレスの時代なんだナー”

JTBエージェントの“格安のシンガポールパックがある。”との誘いに乗せられて、家族と出掛けた正月6日のことである。

リー・クワンユーの率いるシンガポールのここ30年の発展は素晴らしい。シンガポールのバブルは弾ける弾けると言われながらも、人民行動党の経済政策舵取りが良いのか、どこかの国と違ってずっとステディーな経済繁栄を誇ってきたのは立派としか言いようなし。

次なる経済拡大策として、マラッカ海峡～シンガポール～インドネシア・リアウ諸島を結ぶ「成長の三角地帯」をASEAN（東南アジア諸国連合）3ヶ国の共同歩調のもと、一大経済圏に発展させようとしている。———ビンタン島のマナマナビーチはリアウ諸島の一つを構成するネシアの開発中の島で、大きさはシンガポール島に同じ、シンガポール港より南南西、海路一時間のところにある。高速船発着港は、潮が引こうものなら、沖合数百mの干潟ができるマングローブ林を切り開き、浚渫して作った蕭酒な港で、ちゃんと出入国手続の必要な税関事務所がある。港から丘一つ越えた観光ビーチまでは、熱帯林を伐採しラテライト（赤色土）の上を舗装した道路が続き、ニッサンとスズキの中型バスが中継した。

ご多分にもれず、百数十人の乗船者のうち、数十人は日本人であり、ほとんどがヤング、一部熟年———ヤングの中で女性グループがここでも多い。（誘惑に負けねばよいが…）

現地ビーチの褐色青年インストラクターが、オプションツアーの中に含まれる貸出しパドルスキーで、いかに日本人OL風女性に、逆まく波乗りをさせるか。———乗っては転倒、転倒しては波乗りを繰り返し、手取り足取り小一時間、悪戦苦闘のインストラクション———浜風で音声は聞き取れないが、パドルで5～6回波をかくことができた喜び、はしゃぎ、歓声をあげ、でんぐり返っては笑い、飛び跳ね、しゃべくり———何語で話して通じ合っているのか。まさか日本語———会話が長く続くからには、やはり英語、いやボディランゲージ？———意志を通じ合えて、交歓できることは素晴らしい。彼らは、正に、インターナショナル、コスモポリタン……。と、熟年の私達夫婦は、熱帯巨木が作る日陰のもと、ビーチシートに寝そべりながら終日、なぎさを見、浜風に当たっていた。

“オカムラさん、シンガポアは罰金天国。何でも罰金、罰金。タバコ喫って罰金。ゴミポイして罰金。ガムかんで罰金。ツバキをパッして罰金。地下鉄で缶コーヒー飲んで罰金。女性のお尻をタッチして罰金、罰金……”とシンガポール到着翌朝の市内観光バスのツアーコンダクターのファンさんのガイドンス。

“ナカムラさん、公団住宅、幾らか知っていますか？3DKで1,500万円。5DKで3,000万円。10年前は600万円（3DK）。サラリーマン（ウイマン）は給料20%、会社も20%天引き積み立てすれば、公団住宅手に入る。あと数十年支払い続ける。左側建物、公団住宅。右側は、高級公団住宅。……”

“タナカさん、シンガポアでクルマ、幾ら？ —— “200万円位。”と答えると“ノー。” “500万円。”と答えると“ノー。政府登録料750万円。購入費750万円。合わせて1,500万円の公団住宅と同じ。左側前走っているベンツは、2,000万円。政府は、島内の車数を規制。皆んな登録の順番何年も待っています。……”と祖父が福建省出身のシンガポリアン・ファンさんの口調は益々滑らかさが増大していった。

何と、政府に生活管理されている国民（都市民）のことか！（一昨年9月、IGSでシンガポール訪問時には、外国人出稼ぎメイドには1回／2ヶ月の妊娠チェックがあるとも聞いた。昨年市場調査で訪れた時は、フィリピンメイドさんの死刑で国交断絶もあった。）しかし、屈託のないツアーコンダクターのファンさんは、誠心誠意、日本からの観光客接客に徹し、その5日間のホスピタリティーは見事であった。 —— 経済繁栄の光と陰をみた気がした。

ASEAN内の華人都市国家シンガポールは、リー・クアンユーという哲人リーダーのもと、ラッフルズ卿もびっくり、ビジネス都市のベストテン、堂々のトップとなっている。（昨年末フォーチュン誌）「沈む香港、昇るシンガポール」と言われている。

下表はイミダス（1996年版）より抜粋したASEAN7の経済統計である。7ヶ国7様であるものの、経済政策はODA資金、外国資本への門戸開放、育った現地資本などにより、特定基幹事業、農林水産加工、繊維産業、電器、電子、自動車、部品／組立産業などから貿易、不動産、金融、デパート産業など高次化の様相をみせているのは、ご存じの通り。シンガポールは小粒ながらその優等生であり、途上国開発のモデルとして、社会主義国の中国、ベトナム両国の指南役も務めてきた。

ASEANの規模

	人口 (100万人)	名目GDP (10億ドル)	一人当たりGDP (1,000ドル/人)	予想経済成長率 1996(%)
シンガポール	2.9	55.1('93)	19.1	8
マレーシア	19.3	64.4('93)	3.3	8
ブルネイ	0.3	3.6('92)	14.1	—
インドネシア	189.2	144.7('93)	0.8	7
フィリピン	65.7	54.4('93)	0.8	6
タイ	67.1	143.2('94)	2.1	8
ベトナム	70.8	11.5('93)	0.2	9
cf 日本	123	4124('93)	33.5	2

さて、繊維業であるが、当社帝人なども古くからASEANへ資本進出し、年々生産設備増設をしてきた。近年は、メガコンペティション時代を迎え、業容のグローバル化の点で、ASEAN繊維生産拠点が益々重要な役割を演ずるようになってきた。繊維の用途は、衣料

用途→衣料資材(ミシン糸、芯地、裏地、ファンデーションなど衣料を見えないところで支える)
用途→産業用途へと拡大がはかられて来ている。土木用繊維(ジオシンセティックス)は、展開が始まったところである。しかし、インフラ建設で相当市場浸透しているジオシンセティックスの商売は決して楽ではないようだ。独断と偏見をかえりみず、JAPANESE GEOSYNTHETICS MADE IN ASEAN の東アジア、南アジアへの展開上の問題を挙げてみると、

- i こなれた激安プライスに対して、コスト競争力があるか。
- ii PP主流の世界へ、PET主戦で切込めるか。
- iii 華僑ディストリビューターなど、信義を重んずるご当地で、流通チャンネルが新構築できるか。
- iv 旧宗主国が啓蒙、教育してきたジオシンセティックス設計・施工論に対処していけるか。

となる。しかし、世界を見渡して成長センターは東アジア、南アジアしかなく、国内の空洞化が避けられぬ以上、指を食わえて見ているわけにもゆかないのである。

注) ASEAN事情参考書

- 1) 岩崎育夫「アジアの肖像15リー・クアンユー」岩波書店、1996
- 2) 「imidas '96」 集英社、1996